

愛媛県内の企業におけるCSRに関する研究

平成30年度 3年 2組(23) 高橋 あらた
指導 農学部食料生産学科 間々田 理彦

研究の背景と目的

背景：企業の環境保全活動に対する社会的関心が高まっており、県内での事例をもとにCSRに関する理解を深めることが重要である。
目的：企業における、CSRの位置付けと環境情報について整理し、県内企業のCSRに関する取り組みの実態を明らかにする。
研究方法：本研究で事例とした伊予銀行が発行しているレポートの分析と伊予銀行へのヒヤリングによる。

CSRとは？

企業の社会的責任（Corporate social responsibility）の略称であり、企業が倫理的観点から事業活動を通じて、自主的に社会に貢献する責任のことである。

伊予銀行のCSR

CSRの位置付け

伊予銀行は企業理念の中の存在意義を「潤いと活力ある地域の明日を創る」として、それを実現するための手段の一つとして、CSRを考えている。

CSR推進本部

平成4年に定められた企業理念に基づいて、平成18年に行内の各部の部長からなる「CSR推進本部」をつくり、月に一回CSRに関連した意見を出し合っている。

CSRの取り組み

伊予銀行では、環境・スポーツ・教育・福祉・地域活性化の幅広い分野におけるCSRの取り組みを行っている。

環境

環境に関する取り組み

・「伊予銀行エバーグリーンの森」

愛媛県、大洲市、愛媛の森林基金と「森林づくり活動協定」を締結し、平成20年から愛媛県内の4か所（東温市、大洲市、松山市、西条市）で森林を育てる活動を行っている。



・環境基金「エバーグリーン」

伊予銀行は平成20年から愛媛県内の環境保全活動を行う、企業や団体、個人に助成金を贈呈する取り組みを行っている。一年に一回援助を受けたい企業や団体、個人を募集し、活動内容などから審査し、最終的には十数個の企業や団体、個人に助成金を贈呈している。現在までに128先に、約470万円の助成金を贈呈してきた。

・「森のあるまちづくり」

愛媛県や松山市などの行政や、地元企業と一緒に平成22年から植樹活動を行っている。これまでの8年間で県内51か所に約4万8千本の木を植樹している。具体的には、病院やスタジアムの周り、企業が新しく建てた工場の敷地などに植樹している。伊予銀では事務局的角色を担当している。

福祉

・株式会社いよぎんChallenge&Smile

障がい者雇用の専門事業所「いよぎんChallenge&Smile工房」を引き継ぐ形で、平成30年4月に伊予銀行の100%出資子会社として設立し、6月に特例子会社の認定を受けた。伊予銀行のPR品として当行キャラクターの木工グッズや今治のタオルの残糸を使用した織物製品を製作している。また、障がいのある方が生き生きと誇りをもって就労できる環境を整備し、継続的な雇用を通じて、社会参画と自立を支援することをマニフェストとしている。



・いよぎんきつずらんど

女性の就業継続やキャリア形成をサポートするための環境整備の一つとして設置された。企業の社会的責任として次世代を担う子供たちが健やかに育つ環境を整備するとともに、働きながら子育てをする女性をサポートし、多様な人材の活躍推進への取り組みを進めている。

伊予銀行及び関連会社従業員の子供を中心に、最大30人の子供を預かることができる。

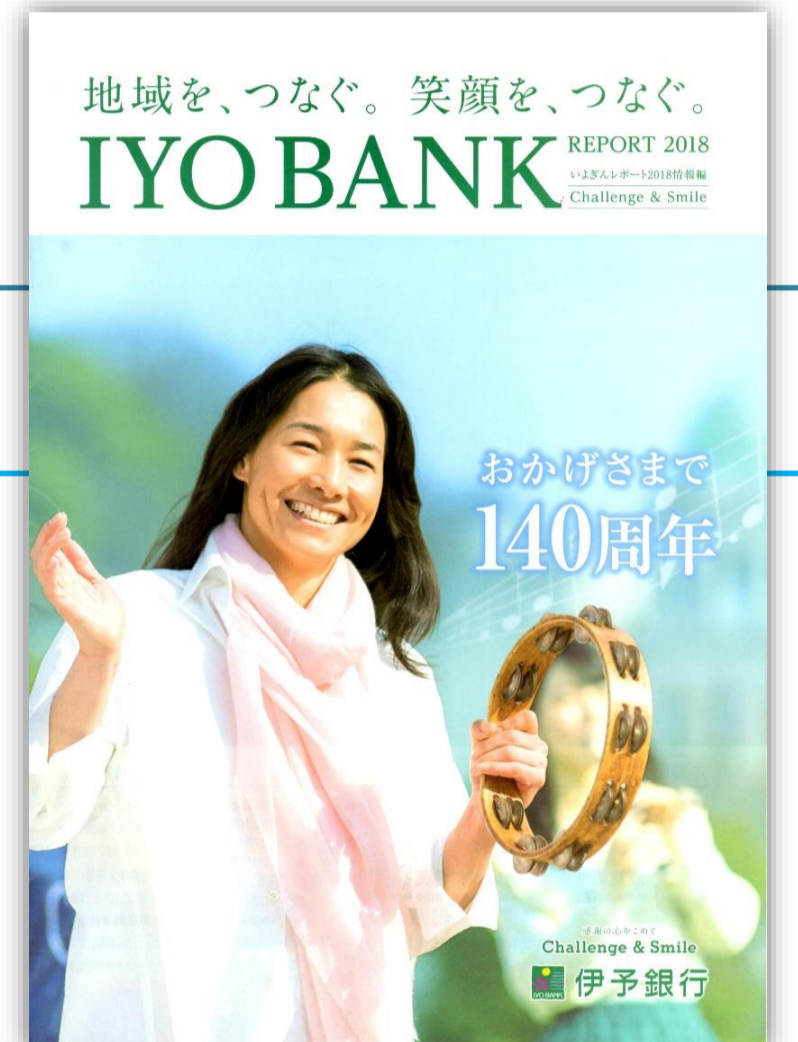


スポーツ・教育

スポーツ

・いよぎんキッズテニス

平成1年に創部した伊予銀行テニス部所属のプロ選手によるテニス教室を、地元の子供たちに行っている。



いよぎんレポート

教育

・キッズセミナー

将来を担う小学生向けに「銀行の仕組み」や「健全な金銭感覚」を学べる教室を開いている。平成28年度では全14回開催し、計472人の小学生が参加した。

・金融出前授業

学校や各種団体からの要望に応じて、様々な金融・経済・キャリア教育の授業を行っている。平成28年度には全13回実施し、小中高校生・専門学校生699人に授業を行った。



・「いよぎんキッズ」

「いよぎんキッズ」というページをホームページ上に制作し、子供向けにお金や銀行の仕組みをわかりやすく説明している。また、愛媛県の地場産業や、お金の歴史などについても学べるようになっている。

その他

・伊予銀行地域文化活動助成制度

地域文化の発展と向上のために、伊予銀行が愛媛県内で伝統的な活動を行っている団体・グループに対して、その活動資金の一部を助成するという制度を行っている。年間に2回、助成を受けたい団体・グループを募集し、様々な審査基準から審査している。これまでに、1,128先に合計2億1,384万円を助成してきた。



・「chocolabo」

平成25年に始まった、伊予銀行の女性行員12名で構成されているプロジェクトチームである。「銀行を、もっとおいしく。」利用できるように女性目線の商品の開発などを行っている。ゆるキャラグランプリに参加したり、LINEを利用して商品やイベント情報を発信している。

今後の課題と考察

現在もCSRを含めた広報活動を行っているものの、多くの人に詳しく知られていない現状がある。そのため、より多くの人に取り組みを知ってもらい参加してもらうために、PRや広報活動により力を入れる必要がある。また、伊予銀行では現在行っている取り組みを続けるとともに、地域の未来の担い手を育てるため、金融教室の取り組みをより活発に行うことを課題としている。

実際にヒヤリング調査を行ったことで、様々な面に対してCSRの取り組みが行われていることがわかった。そのことからこれらは時代背景の変化に伴ってより多様化していくと考えられる。

謝辞

ご指導いただきました、愛媛大学農学部の間々田先生、附属高校の横山先生、ヒヤリング調査にご協力いただいた伊予銀行広報CSR室様、ありがとうございました。

※ 写真・図は伊予銀行のホームページより転載
<http://www.iyobank.co.jp/>